

# 歯学教育の現状



文部科学省高等教育局医学教育課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)の概要 ①

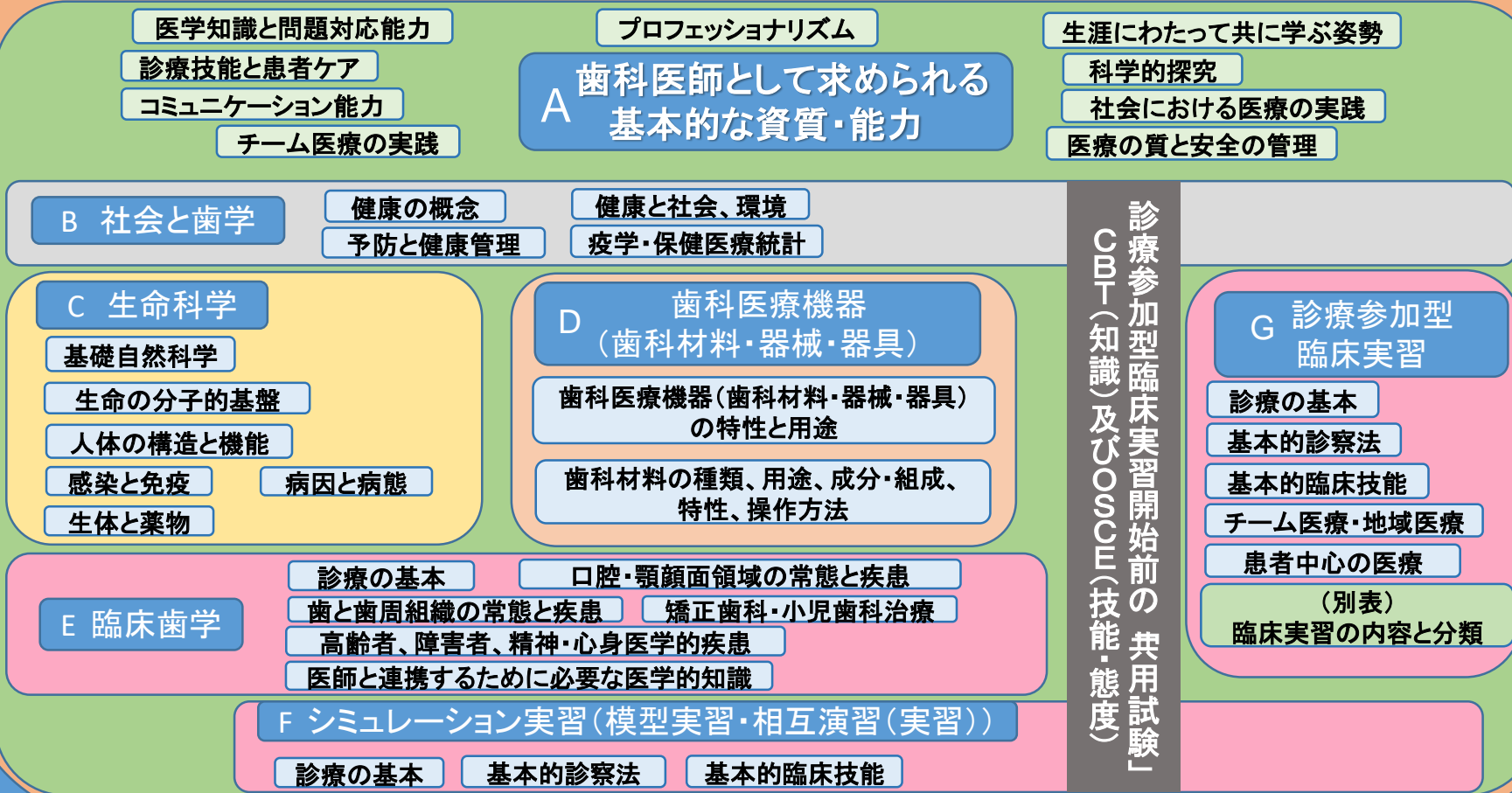
- 学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)を、「ねらい」と「学修目標」として明確化
- 学生の学修時間数の6割程度を目安としたもの
- 「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」として、ミニマム・エッセンスである項目を記載

【各大学のアドミッション・ポリシー】

【各大学のカリキュラム・ポリシー】

【各大学のディプロマ・ポリシー】

## 多様なニーズに対応できる歯科医師の養成



各大学の特色ある独自のカリキュラム(学生の学修時間数の4割程度)

※ 各大学が教育理念に基づいて設置する独自の教育内容(学生が自主的に選択できるプログラムを含む)

診療参加型臨床実習終了時の技能・態度評価

歯科医師法に基づく歯科医師国家試験(知識)

## 1. 縦のつながり:モデル・コア・カリキュラム・国家試験出題基準・臨床研修の到達目標、生涯教育カリキュラムの整合性

→国家試験出題基準との内容を整合。

## 2. 横のつながり:医学と歯学のモデル・コア・カリキュラムの一部共有化

→両モデル・コア・カリキュラムの考え方の多くを重複させるとともに、「A 歯科医師(医学教育においては医師)として求められる基本的な資質・能力」も最大限共有。

## 3. 「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」の実質化

→学修により獲得可能なものであることを明確にするために、「資質」から「資質・能力」へと改変。

## 4. 診療参加型臨床実習の充実

→診療参加型臨床実習の推進・充実のために、「G 臨床実習」の別表として「臨床実習の内容と分類」を明示。

また、超高齢社会など近年の社会的ニーズに対応できる歯科医師の養成のために、臨床実習においても地域医療を充実。

## 5. 超高齢社会への対応

→多職種連携・多職種協働やチーム医療を具体的にイメージできるよう改訂。

「A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力」にA-7-1) 地域医療への貢献やA-5 チーム医療の実践、A-4 コミュニケーション能力を列挙するのみならず、B-2-2) 保健・医療・福祉・介護制度、G-4 チーム医療・地域医療の各項目で記載。なお、単に高齢者に対する医療や介護だけではなく、全年齢を見据えた予防も含めた地域保健や関連する地域福祉の理解と実践が必須。

## 6. 臨床実習開始までの基礎模型実習を含めた技能教育に関する学修目標の新設

→臨床実習開始前に技能・態度領域で学修すべき項目を、「F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))」として新設。

## 7. 教養教育と準備教育の融合

→これまで準備教育モデル・コア・カリキュラムとして記載されていた教養教育と準備教育の内容を発展的に融合し、歯学教育モデル・コア・カリキュラムに包含。人の行動と心理をB-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理に、統計の基礎、統計手法の適用をB-4-2) 保健医療統計に生体を構成する物質の化学的基礎をC-1 基礎自然科学にそれぞれ発展的に融合。

## 8. 「目標」の整理

→これまで「一般目標と到達目標」とされていた両者の関係をより明確にするために「ねらいと学修目標」に変更。

## 9. \*印の廃止

→臨床実習開始前からその学年に応じたレベルで学修すべき内容も含まれていることを強調するために\*印を削除し、「モデル・コア・カリキュラムは“共用試験出題基準”である」というイメージからの脱却。

## 10. 総量のスリム化

→学修目標について内容の再検討・削除を行い、総量をスリム化。

## 11. 歯学用語の表記の整理

→用語の不統一は、歯学を学修する学生に不必要な負担を強いることにもつながるため、用語を統一。

## 12. 世界への発信

→日本の歯学教育を世界に広報するために、本改訂版の英文翻訳を文部科学省の委託事業により進める予定。

(平成29年度実施済)